

2019 群馬県高等学校春季女子ソフトボール大会

前橋育英

2019年
4月21日
日曜日

前橋育英便り

号外

宿敵市立太田破り

2年ぶり栄冠

群馬県大会

決勝戦の対戦相手は市立太田。昨年の新人戦では、延長戦の末、惜しくも敗戦。県内4強の壁を改めて痛感した大会でもあった。今大会はリベンジマッチ。この一戦に勝てば、次が見えてくる。試合は序盤リードされながらも、先発投手の気持ちで市立太田を抑え込む。前橋育英打線も奮起。気持ちの一打で同点。ついにタイブレーク



勝機呼ぶ、スーパープレー!

緊張感ある タイブレーク

クに突入。その後も、点を取っては追い付かれ、一歩もひけない中、最終局面に入り、絶体絶命のピンチ。レフトのスーパープレーで、ムードは一気に前橋育英に。気持ちを切らず、ついに逆転の一打が飛び出し、前橋育英が春の大会を制した。2年ぶりの栄冠。部員数40人を超える前橋育英ソフトボール部。「今年は一試と味違う」。育英魂で初のインハイ出場を目指す。

毎年、群馬県内ではベスト4止まりというイメージが強かったが、この大会を制する事が出来て本当にうれしい。いつも練習試合に足を運んで選手たちを見守ってきたので、涙があふれる。

保護者からも喜びの声

保護者達も全員で応援して、最高の夏を皆で過ごしたい。

次を勝って、本当の前橋育英の強さを見せてほしい。これからたくさん、前橋育英に足を運んで、選手たちの成長をこの目で見届けていきたい。最後に、感謝をありがとう。これからも応援しているよ。

選手の声

いつも、いつも、4強相手には負けていました。だけど、負けられない一戦がこの試合だった事は、皆が感じていました。こんなに緊張感のある試合は初めての経験でした。皆で勝つ事の喜びを改めて感じました。

結果は優勝という事で、まずは大きな自信につながったと思います。あと2大会、ノーストップで突き進んでいきたいですね。

試合中に先生からの厳しい指示。だけど今回は笑顔を見ることができました。厳しい中でも楽しみながら試合ができたと思います。



前橋育英新聞

2019年
6月17日
第2号
発行
前橋市
編集
広報・宣伝部

インハイ予選、初の栄冠

前橋育英女子ソフトボール部

宿敵、相次ぎ破り
これまでの悔しさバネに

群馬県高校女子ソフトボールのインターハイ予選が6月8日から始まり、前橋育英は順当に勝ち上がり、準決勝で宿敵、健大高崎と対戦し激闘を制した。決勝戦は総体で黒星を喫した市立太田と戦い、5対1で勝利、創部以来初のインターハイ切符を手にした。



優勝を決め喜ぶ育英ナイン

てきたものの、インターハイ予選というビッグゲームに多少の不安を残した。しかし、今年の前橋育英は違った。先輩部員の悔しさを胸に、さらには、いつしか「絶対負けない」という「勝利」への執念が、日々の練習で身に染みついたのだ。

「勝利」への執念実る

逆境を全員でカバー

楽しみながら

これまでの、一つのエラーで崩れるパターンだったのが、投手、野手は耐え、そして、それを跳ね返す打線、まさに全員でカバーし合う体制が整った。

市立太田戦・・・それは昨年にさかのぼる。新人戦ではタムスの投手が踏ん張り、イブリーグにもつれ

昨年からの市立太田戦

込み敗戦。毎年同様に大きな壁に、ぶち当たる。そして、今年の春季大会では決

予選では再び決勝戦で市立太田と対戦。エラーで涙をのんだ。そしてインターハイ予選決勝。前大会と同カードとなり、これが4度目の正直。気迫あふれるピッチングを見せた左腕が、気合

一戦ごとに成長手ごたえ

編集部の窓

発行ペースは決まっていますが、前橋育英ソフトボール部の号外は今年に入って2回目です。早いペースですね。それだけに、前育ソフト部は頑張った証ですね。

保護者の視点で新聞を制作しています。多少のご無礼はご了承ください。引き続き、ビッグゲームを制した際は号外を出しますので、皆さん頑張ってください。

ソフトボール部応援団より



原先生（写真左）原口先生（写真右）の胸上げの瞬間

し、このスタイルこそが前橋育英ソフトボール部。そのチームが、群馬県ナインバーワンチームにのし上がったのだ。

実際の所、前橋育英ソフトボール部には、生ぬるさはない。行動には多量に励んできた。

野球部には「凡事徹底」というテーマがあるが、まさにその通りで、当たり前のことを徹底して行う。その積み重ねが今日に至ったのは言うまでもない。

近々、校舎にインターハイ出場という大きな垂れ幕が目に見える。夢に描いてきた光景が今、現実のものになる。

叶えなきやいけない夢もある

見たことのない全国の舞台

「叶えたい夢がある、叶えなきやいけない夢もある。インターハイ出場は自分たちだけの夢じゃないんですよ。先生はもちろん、これまで支えてもらった両親や周囲の関係者の皆さんのために・・・。だからインターハイ出場という夢を叶えなきやいけないんですよ」。今、こうして前橋

育英ソフトボール部はインターハイ出場権を手にした。「今年こそは、今年こそは」と毎年想い続けてきた。ついに、この日がきた。その光景は一生忘れないであろう。「このメンバーで、一日でも長くソフトボールがしたい」。振り返ると順風満帆な道のりではなかった。当初は

例年と同じく大きな壁を乗り越えることができなかった。「でもやるしかないんですよ」。

決勝戦は全員が笑顔だった。そこには何の不安すらなかった。大舞台になればなるほど、前橋育英魂というオーラが会場全体を包み込んでいた。「一人は皆のために、皆は一人のために」。必ずしも

声高く、勝機を呼ぶ 大舞台で育英魂



最高潮の盛り上がり

全員が好調なことはありえない。一人が不調であれば周囲がカバーし合う。これこそが、団体競技の醍醐味であって、観るものを魅了する。「感謝の気持ちをプレーに込めて、一本贈るよ」。これから前橋育英ソフトボール部は、未知の世界へ一歩、踏み込むことになる。経験したことのない全国の舞台。「どんな景色なのか、しっかりと、この目で見てきます」。群馬県制覇という夢を叶え、今度は全国

に挑む。一戦必勝あるのみ。群馬県代表として・・・。3年生にとっては最後の大会。「まだ実感はないけれど、楽しみながら、のびのびと、全国大会に挑みたいです」と思います。例年通り、暑い夏がやってくる。今年の夏は、これまでになような熱く盛り上がる、ひと夏になりそうだ。

あつという間に過ぎ去ろうとしているソフトボール生活。まだ、夢の続きを見させてもらいます。

インターハイ県予選優勝



思い出のキャッチボール 保護者の想い

宿敵を破ったのインターハイ予選の栄冠はともうれしい。最後の最後で、決めた（全国）ことは、選手たちにとって大きな自信につながる。努力は必ずしも実るわけではないが、チームとしてみれば、最高の形を描くことができたように見えた。高校ソフトにこれだけ燃えさせてもらったことへの感謝が大きい。

泣いたり笑ったり、あつという間に過ぎ去った年と数ヶ月でした。まだ小さかった頃、小さなグロブでキャッチボールをしたことを今でも覚えています。あれから数年が経ち、大きく成長しました。またいつの日か、キャッチボールをしよう。いつもと変わらぬ朝を迎え、送りの道中。特に言葉を交わすこともなく、最後の一番への期待を膨らませて

いました。あと一カ月グラウンドに入れることへの感謝の気持ちを忘れずに。



前橋育英新聞

一戦必勝 ソフトボール部

インハイ宮崎

長距離移動の疲れも見せず、笑顔を見せる前橋育英ソフトボール部の選手たち

頂点目指し全員の力を結集

頂点目指し全国48校が出場

群馬代表 前橋育英 勝利への執念

季節が到来。それ以上に熱き戦いを期待したい。群馬では前橋育英野球部が夏の甲子園切符を手にした。前橋育英への追い風は、どこよりも強く吹いている。

令和元年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)ソフトボール競技大会の開会式が27日、宮崎県日向市の文化交流センターで開かれた。全国48校が出場し、28日の初戦を皮切りに31日まで熱戦が繰り広げられる。

前橋育英は初のインターハイ出場となる。初戦の相手は選抜準優勝校で福岡代表の北九州市立高等学校と対戦する。全国屈指の強豪校だけに、初戦に勝てば、一気に上位に食い込む可能性がある。

部員数は43人と他校に引けを取らず、更にインターハイ出場を決めてからは、各県の代表チームと練習試合を行い、力をつけてきた。夏本番の暑い

今大会のテーマは「感動は無限大」。今日まで、数えきれないほどの努力をし、全てはインターハイ出場のために取り組んできた各校。夢が叶わず涙をのんだチームの為に、そして、県の代表チームとし

ての誇りを持ち、力を出し切る大会となる。令和最初の大会で優勝旗に名を刻むのは、どの高校になるのか。



前橋育英新聞

インハイ NEWS

7月29日(月曜日)

発行所 前橋育英保護者会
発行責任 広報部



前橋育英新聞からのお知らせ

悲願のインターハイ出場を決めた前橋育英ソフトボール部でしたが、本大会では、残念ながら初戦敗退という結果に終わってしまいました。しかしながら、足跡はしっかりと残してきた戦いだったと感じます。この続きは後述に託されます。また一からのスタートになりますが、「楽しみながら、勝負にたむかう」というスタイルを掲げ、再び全国の舞台に立てる選手たちに頑張ってもらいましょう。引き続き応援を宜しくお願い申し上げます。



常勝校に善戦も力及ばず

女子ソフトボール

インターハイ初戦 前橋育英

前橋育英は7月28日、インターハイ初戦で春の選抜大会準優勝の北九州市立高等学校(福岡県)と対戦した。序盤から投手戦が繰り広げられ、一瞬も目が離せない状況が続いた。左腕が気迫の好投を見せると、野手も堅守で盛り立てる。4回を終え0対0、前橋育英は5回に先取点のチャンスをつくるも得点ならず、その裏に北九州市立に2点を取られる。

援護を待った。

最終回に入り、代打攻勢で逆転劇を狙った。「ソフトボールの神様がいのなるなら、前橋育英に勝利の女神を」と手を合わせるスタンドの応援団たち。「絶対、絶対、絶対勝つ、グラウンド・スタンド一丸となり」。周囲の声は届いていた。その声は群馬にも確実に伝わった。「泣いても笑っても、これが仲間と戦う最後の夏なんだ」。……。

ゲームセット。前橋育英は0対2で惜しくも初戦敗退となった。最後に整列、現メンバーとしては最後の瞬間だ。選手たちは泣いていた。「終わった」……。勝負の厳しさを改めて痛感した瞬間であった。

勝負の世界は残酷である。頂点を描くことは誰にでもできるが、上には上がいる。一枚も一枚も強いチームがチャンピオンフラッグを手にする。

ただ、この大舞台に立つことができたのは、選手たち全員の努力の結晶だ。創部以来初のインターハイ出場という歴史を塗り替えたことは、とてつもなく大きな意味を持つ。3年生は、一部国体はあるが、これで一区切りとなる。思い返せば2年4カ月前、前橋

育英の門をくぐった。これまでの思い出のシーンが一気にフラッシュバック。これが青春の一

ページというものののだろうか。気が付けば、もう8月になる。3年生はこれから、女子高生として、普通の生活に戻る……。

女子 1回戦 前橋育英高等学校 vs 北九州市立高等学校

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
前橋育英 (群馬県)	0	0	0	0	0	0	0				0
北九州市立 (福岡県)	0	0	0	0	2	0					2



試合直前に全員の士気を高める

「やれば何でもできる」

ソフトボールを通じて多くの出会いがありました。インターハイでは応援してくださった皆さんに、何とか1勝をプレゼントしたかったです。ここまでソフトボールをさせて頂きありがとうございます。前橋育英で良かった。その一言に尽きますね。



「まずは群馬県の頂点になること」。その夢を実現できたことが大きな自信になりました。全員で掲げた優勝旗。それとインターハイ出場。これが今年一番のサプライズプレゼントでしょうか。サプライズって言ったなら怒られるかな？ 努力の証だね。

しばらくは、ゆっくり休んで女子高生を満喫します。でも、ソフトボールやりたくなるんだろうな。

宮崎で魅せた上州の底力 全国経験し次に期待

一丸で戦う事の素晴らしさ学ぶ



大会初戦に挑む選手たち

